

サーフデザインを考える

15種類から選べる  
ボードバッグ発売!  
**ESCAMAS**  
×  
**Blue.**

[ブルー No.18] 880yen

→8月号増刊第20巻第14号2009年8月1日発行

# Blue.

SURFSIDE STYLE MAGAZINE

ジョー・カレン、デーン・ピーターソン  
クリス・デルモロ、ダン・マロイ  
オーストラリアへの旅

オルタナティブ・  
サーフショップガイド

夏のボトムス選び

サーファーたちの  
ハンドメイド・ライフ

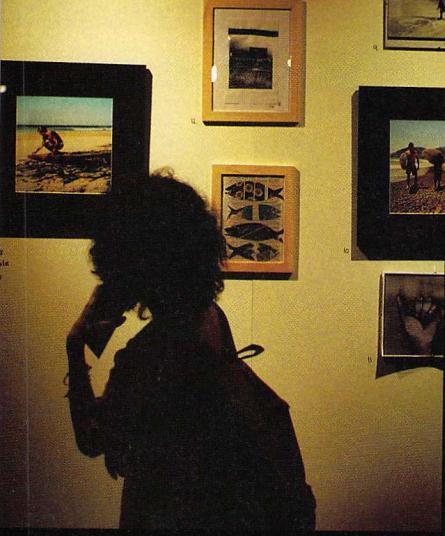
FISHFRY JAPAN  
総力レポート

CLOSE UP!

## SURF Design

完全保存版 サーフボードヒストリー  
ファッショhn、ポスター、アート etc…

H BROWN



# THE GREENROOM FESTIVAL '09

MUSIC ART FILM



# 海がとどける感性の種が 芽吹かせる新たな色彩

ボードカルチャーをルーツに持つフェスティバル『THE GREENROOM FESTIVAL』が開催された。

ミュージック、アート、フィルムをコラボレートさせたフェスティバルは今年さらに勢いを増し

土日ともにチケットが完売。海外からも多数のミュージシャンやアーティストが参加した。

今年もアートブースは表現者たちにより、新たなサーフデザインで彩られた。

photo: Nyuru

サーフィンは常にデザインと共に歩んできた。世界中の波を制覇するために新たなサーフボードが日々誕生し、極寒の海でも闘えるよう、ウエットスーツは今でも日進月歩の進化を遂げている。そんな機能面におけるサーフデザインの広がりが今のシーンを支えているわけだが、一方で、より感覚的に発達したサーフデザイ

ンも数多く存在する。ファッション、アート、記録目的とはまた違うムービーやフォトグラフ、そして音楽もそう。海から得たフィーリングが表現者たちによって媒介され、無限の作品となって世に飛び出す。いつしかサーフィンは、ひとつのカルチャーと目されるまでになった。遊びとスポーツ、海と陸、快樂と恐怖、そんなさまざま

な境界線の狭間を浮遊する特異性が、独自のスタイルを築かせたのだろう。

5月最後の週末、横浜大桟橋ホールにて『THE GREENROOM FESTIVAL』が催された。今年で5年目、その勢いは年々増し、今や大型フェスと呼ばれるまでに成長を遂げた感がある。しかし根本にはサ

ーフィンをはじめとするボードカルチャーの精神が宿り、今後もそうあり続けて欲しいと願う。今年はアートブースが独立し、よりゆったりと作品を眺められるようになった。アーティストたちの感性を通して、新たに抽出された創造の種。それを眺める観客たち。サーフデザインの可能性は、こうして人の数だけ広がっていく。



# NEWS



## 今月のカバー・アーティスト 人が夢想する楽園とは ヘザー・ブランが描く こんな情景かもしね

photo@nyuru

主催の音楽フェス「ロマニア・ハルバ」  
を始めてから、毎年開催されるこのフェスティバルでは、多くのアーティストたちが登場する。しかし、彼女は毎回必ず新曲を披露する。今年は、彼女が本番のために新たに作曲した「わが心」が、彼女の歌詞を詠んでいます。彼女は、実は本格的に音楽活動を始めたばかりで、今年の音楽フェスでは、彼女の歌詞を詠んでいます。

「わが心」は、彼女の歌詞を詠んでいます。彼女は、実は本格的に音楽活動を始めたばかりで、今年の音楽フェスでは、彼女の歌詞を詠んでいます。彼女は、実は本格的に音楽活動を始めたばかりで、今年の音楽フェスでは、彼女の歌詞を詠んでいます。

5月に開催されたグリーン・フェスティバルでは、アーティスト仲間である花井祐介とのライヴペインティングを披露。しかも前々から決まっていたことではなく、突然、花井からセッションを持ちかけられたとか? 生で見れた方、ラッキーですね。

グリーンルーム・フェスティバルへザーブランが出演したアート作品。そのタッチは力強くインパクトに富むが、時に優しく繊細さもあわせて表現される。まるでステンドグラスのような世界観



「ヘザー・ブラン・ギャラリー」  
④東京都港区南青山2-10-4 203-5474-7729  
⑤11:00~19:00 水曜 [www.heatherbrown.jp/ja/access.html](http://www.heatherbrown.jp/ja/access.html)